

# 令和 5 年 度 徳 島 市 助 任 小 学 校 総 括 評 価 表

学校教育目標 自主性・社会性・創造性に富み、確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

自 己 評 価		評 価		学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策
1 自ら学び、考え、行動する子ども(知)	①「主体的・対話的で深い学び」の実現により学力向上を図る。  ② タブレット端末等の有効活用により授業改善を行う。  ③ 読書習慣を確立する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 概ね評価指標を達成できた。思考力・表現力・活用力等を育成するため、指導法について校内研修を実施し、全教職員で話し合いながら授業改善を進めた。タブレット端末の授業中の活用も頻度が増しているが、なお一層効果的な活用を促進していく必要がある。読書習慣の確立については、ここ数年の課題である。児童が進んで本に親しむことができるよう環境整備に努める必要がある。	読書週間の確立については、司書ボランティア等の活用は、図書館を充実させるとともに、児童の話し相手となってサポートしてもらえることも期待できるのでないか。「個に応じたきめ細かい指導」の評価指標達成度は100%となっているので今後も下がることのないよう継続して取り組んでほしい。
		①児童用アンケート(授業はよく分かる)で肯定的評価が85%以上	① 92% (R4)→ 93% (R5)		
		①自己評価項目の(個に応じたきめ細かい指導)で肯定的評価が85%以上	① 92% (R4)→ 100% (R5)		
		①自己評価項目(思考力・表現力・活用力等の育成)で肯定的評価が85%以上	① 94% (R4)→ 97% (R5)		
		②自己評価項目の(タブレット端末等を有効に活用)で肯定的評価が70%以上	② 54% (R4)→ 65% (R5)		
		③自己評価項目(読書習慣の確立を図る)で肯定的評価が85%以上	③ 84% (R4)→ 72% (R5)		
		③児童用アンケート(本をよく読む)で肯定的評価が70%以上	③ 65% (R4)→ 67% (R5)		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①教材研究に努め、指導方法を工夫し、わかりやすい授業を行う。また、聞き方、話し方を指導したり、話し合いの目標を明らかにして個々の考えを伝え合う場を意図的に設定したりする。	①児童の実態を学校全体で共通理解のもと学力向上プランを作成し、教員が個々の授業づくりや聞き方・話し方の指導を行った。ペアやグループでの話し合いも積極的に取り入れた。		
		②タブレット端末の効果的な活用についての研修を実施し、授業で日常的に活用する。	②タブレット活用の校内研修を数回実施し、授業での活用場面が増えた。		
		③「朝の読書」「家庭読書」を通し、読書習慣の確立を図る。	③読書時間や読書量の増加が見られるが、習慣の確立には至らなかった。		
2 思いやりのある子ども(徳)	①全ての領域で人権感覚を磨き人権尊重の精神を寛容する。  ②よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心や社会性を育成する。  ③道徳教育を充実し、よりよく生きるために必要な資質・能力を育成する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 評価指標を達成できた。教員が児童個々の良さを認めることで、自尊感情を高めるとともに、児童がお互いの良さに気づき認め合う仲間づくりを行った。今後も、より一層仲間づくりを通して、思いやりや社会性の育成に努めていく。	上からの指導では、なかなか児童に伝わらないことが多いのは、時代の変化を感じる。指導方法を変えていくのは先生方も苦勞が多いことと思う。「よりよい仲間づくり」の評価指標達成度は100%となっているので今後下がることの内容継続して取り組んでほしい。
		①自己評価項目(人権感覚を磨く)で肯定的評価が85%以上	① 92% (R4)→ 98% (R5)		
		②自己評価項目(よりよい仲間づくり)で肯定的評価が85%以上	② 94% (R4)→ 100% (R5)		
		②保護者用アンケート(やさしく思いやりがある)で肯定的評価が85%以上	③ 91% (R4)→ 95% (R5)		
		③自己評価項目(道徳的実践力の育成)で肯定的評価が85%以上	④ 92% (R4)→ 95% (R5)		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①普段の学校生活の中で常時指導や人権学習により、系統的・継続的に指導していく。	①「ひかり」等の教材学習や人権集会など、各学年で系統的に人権尊重の精神を涵養した。		
		②日々の生活指導や元気タイム、各種行事の中で、よりよい人間関係の形成に配慮していく。	②日常生活の中で都度指導するとともに、行事等を実施し、思いやりの心を育てている。		
		③道徳科の時間をはじめ全教科や領域の中で、道徳的な指導を工夫して行う。	③きまりのある生活の実践や互いに信頼し仲良く助け合っていくこと等について粘り強く指導している。		
3 たくましい子ども(体)	①運動への意欲を喚起し、技能や体力の向上を目指す。  ②健康教育や食育を充実し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 評価指標を達成できた。体育授業の充実やおはよう元気タイムの実施、外遊びの奨励を通して、児童の体力向上を図った。また、発達段階に応じて食育や健康の授業も適宜実施することで、望ましい生活習慣の定着に繋がった。学校保健安全委員会を実施し、健康保持増進について学校全体で共通理解を図った。	今後も継続して取り組んでほしい。
		①自己評価項目(運動する意欲と能力の育成)で肯定的評価が85%以上	① 97% (R4)→ 93% (R5)		
		①児童用アンケート(健康管理や体力づくり)で肯定的評価が85%以上	② 82% (R4)→ 85% (R5)		
		②自己評価項目(望ましい食育の推進を図る)で肯定的評価が85%以上	③ 89% (R4)→ 93% (R5)		
		②自己評価項目(保健安全教育の充実)で肯定的評価が85%以上	④ 92% (R4)→ 97% (R5)		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①楽しみながら運動に取り組むことを通して技能や体力を向上させる学習内容・方法・指導を工夫する。	①授業では個々にめあてを持たせるとともに、意欲的に運動できるよう学習活動を工夫した。陸上や水泳記録会等の体育的活動への参加機会を充実させている。		
		④食育や健康教育を充実させ、健康で安全な生活を営む力を育成するよう努める。	③食育だよりや保健便り等を発行し、家庭と協力しながら食育・健康教育を行った。		

4 生徒指導の充実	<p>① 基本的生活習慣の確立</p> <p>② 不登校やいじめの未然防止及び関係機関との連携による早期発見・対応</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(挨拶と正しい言葉遣い、清掃活動)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②児童用アンケート(学校に行くのが楽しい)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②自己評価項目(校内指導体制の確立と地域・家庭、関係諸機関との連携)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①あいさつ・正しい言葉遣い・清掃の継続的指導を実施。</p> <p>②児童と教師及び児童間の良好な人間関係を築き、共感的な指導の充実を図るとともに、魅力ある学校づくりに努める。</p> <p>②家庭との連携を密にし、校内生徒指導部会で問題解決のための具体的な協議を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 挨拶, 言葉遣い 9.4%(R4)→ 9.7%(R5) 清掃活動 9.2%(R4)→ 9.7%(R5)</p> <p>② 9.1%(R4)→ 9.3%(R5)</p> <p>② 8.4%(R4)→ 8.8%(R5)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教職員や生活委員会であいさつ運動を実施している。</p> <p>②どの学年もトラブルはあるが、その都度発達段階に応じて共感的に指導を行った。授業や行事を工夫し魅力ある学校づくりに全教職員で取り組んでいる。</p> <p>② YOSS の事業を活用し、問題の早期発見に努めチーム会議等実施し、外部機関を含め組織的に対応した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 評価指標は達成できた。 あいさつや言葉遣い、清掃などは継続して指導を行うことが求められる。 また、不登校傾向の児童が増加傾向にある。子どもたちが「学校に行くことが楽しい」と思える学校づくりをめざすとともに家庭への支援も課題である。外部機関との連携も行いながら長期的に粘り強く対応する。</p>	<p>指導方法の工夫はしながらも、指導すべきことは、きちんと指導していくことが必要。 生徒指導で一部の児童への関わりが多くなるからといって他の児童への関わりがおろそかにならないような配慮が必要である。</p>	<p>挨拶や言葉遣い、清掃活動等についての指導のあり方を全教職員が共通理解し継続して取り組んでいく。 不登校傾向のある児童の早期発見に努め、家庭と連携しながら対応していく。状況に応じて SC や SSW とも情報共有して連携を図る。</p>
5 特別支援教育の推進・充実	<p>① 支援体制のさらなる充実</p> <p>② 一人ひとりのニーズに応じた指導・支援</p> <p>③ 家庭・地域・関係機関等との連携</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(校内支援体制の整備充実)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②自己評価項目(一人一人のニーズに応じた指導)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>③自己評価項目(家庭・地域・関係機関等との連携)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①支援体制の整備を進め、特別支援教育を推進・充実する。校内研修でポジティブな行動支援について学び、全ての児童を対象として適切な支援を行う。</p> <p>②特別な支援が必要な子どもについて、全職員で共通理解し、個に応じた支援をしていく。</p> <p>③家庭や外部機関と連携して個別の対応を行っていく。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 7.6%(R4)→ 8.8%(R5)</p> <p>② 8.7%(R4)→ 9.7%(R5)</p> <p>③ 8.4%(R4)→ 9.7%(R5)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①ポジティブな行動支援の手法を取り入れ、通常学級においても適切な支援が行えるよう努めた。適宜校内支援委員会やケース会議を開き、支援の方向性を協議した。</p> <p>②年度当初に児童理解研修を行い、個別に保護者と相談しながら支援をすすめている。</p> <p>③家庭との連携を密にするとともに、必要に応じて SC や SSW や主任児童委員、児童相談所等と連携し対応した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 評価指標は、達成できた。 特別支援学級在籍児童はもちろん、通常学級にも支援が必要な児童が増加している。ポジティブな行動支援の手法を取り入れ、全ての児童への支援を行うとともに、個々の状況に応じ、家庭・関係諸機関と連携しながらきめ細かい支援を行っている。</p>	<p>今後も支援を要する児童の数は増えて大変と思うが、引き続ききめ細かい支援をお願いしたい。</p>	<p>教育委員会や SC, SW 等専門機関とのより一層の連携を図り、専門家の意見を学校と家庭で共有できるように努める。 また、ポジティブな行動支援を継続し、通常学級での適切な支援の充実も図る。</p>
6 信頼される学校づくり	<p>① 安全・安心な学校への改善・努力</p> <p>② 保護者・地域との連携</p> <p>③ 全教職員による協働体制の確立「組織的対応」</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(安全・安心な学校への改善努力)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②保護者アンケート(保護者や地域との連携)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>③自己評価項目(協働体制の充実、働き方改革の推進)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①登下校の安全対策について、積極的に努める。学校内の環境を整備し、事故防止に努める。</p> <p>②学校評価アンケートや学校運営協議会からの意見を今後の学校運営に生かす。</p> <p>③学年会、職員会、終礼等で共通理解を図る。「報告・連絡・相談」で、トラブル等は、一人で抱え込まずに組織で対応する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 8.9%(R4)→ 9.5%(R5)</p> <p>② 7.9%(R4)→ 8.4%(R5)</p> <p>③ 協働体制 8.9%(R4)→ 8.8%(R5) 働き方改革 7.6%(R4)→ 7.9%(R5)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教員による交通立哨や下校パトロール、地域や保護者による登下校指導を実施。児童の健全育成に関する事業を推進している。</p> <p>②アンケートから見える課題をつかみ、学校運営協議会を開催し、学校教育に関する意見聴取をし、学校運営に活かしている。</p> <p>③職員会や終礼等で、共通理解を徹底する。組織の活性化を図り、風通しのよい職場環境づくりをすすめている。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 評価指標は、概ね達成できた。 開かれた学校の実現に向けて運動会やオープンスクール等の行事を保護者や地域に公開し実施した。 学校・保護者・地域および関係諸機関が連携することで、子どもは安全・安心な学校生活を送ることができる。今後も、丁寧な情報発信に努めていきたい。</p>	<p>防災や福祉の面など地域が協力できるところもあるので、また必要があれば声をかけてほしい。</p>	<p>開かれた学校に向けて、学校行事の公開を今後も継続するとともに、学校ホームページや連絡アプリを活用して情報開示に努める。 登校時の交通立哨や下校パトロール等、安心で安全な街づくりに保護者や地域と連携して取り組む。</p>

「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった